



歯科保健医療国際協力協議会 第30回総会および学術集会 プログラム・抄録集

30周年記念誌

【総会・学術集会】

2019年7月6日（土）・7日（日）

会場：東京歯科大学本館13階
（東京歯科大学水道橋病院）

大会長 眞木 吉信
（東京歯科大学衛生学講座 名誉教授, JAICOH 副会長）

実行委員長 谷口 健太郎
（東京歯科大学社会歯科学講座, JAICOH 理事）

問い合わせ先：jaicoh2019@gmail.com

歯科保健医療国際協力協議会設立 30 周年記念の年に総会・学術集会を主催する

第 30 回 歯科保健医療国際協力協議会 総会・学術集会 大会長
東京歯科大学 名誉教授
眞木 吉信

歯科保健医療国際協力協議会が村居正雄先生の献身的な努力によって 1990 年に設立されてから 30 年という記念すべき年に総会と学術集会を主催させていただくことは、設立時から関わってきた経緯もあり、設立総会会場と同じ東京歯科大学で開催されることを光栄に思っております。

設立前年の 1989 年にスウェーデンの留学から帰って、北欧諸国で体験した「開発教育」の実態を日本の歯科医学教育にも導入すべきと考えていた時に、「国際保健医療協力専門員」の資格を取得した村居先生から、東南アジアや南太平洋地域で活動している民間の歯科保健医療の国際協力組織における情報交換や研修会を意図した協議会の設立に協力を依頼され、実績も知識も何もないままに、一緒に行動させていただくこととなったのが最初です。

当時、東京歯科大学もタイ王国のチェンマイ大学歯学部との交流を図り、毎年のように数週間から月単位で訪れて、歯科保健医療のみならず歯科医学教育の協力も行ってきました。その後も歯科保健医療および歯科医学教育の協力はミャンマー、マレーシアさらにはラオスにまで広がると同時に、阿部 智君（現千葉市市議会議員）のように学生の中にも途上国への歯科保健医療協力と学生交流を望む声が広がり、東京歯科大学には「国際医療研究会」という学生の組織も設立されて現在 20 年以上の歴史が出来、毎年学生主催のスタディーツアーを実施するとともに APDSA（アジア太平洋地域歯科学学生組織）における学生交流にも参加しております。

本年は歯科保健医療国際協力協議会の 30 周年という記念すべき年でもあり、この抄録集も 30 周年記念号として、本会に加盟する歯科保健医療の各組織からの報告と役員経験者からの声を載せさせていただきました。学術集会に関しては、従来 of 会員による一般口演に加えて若手歯科医師と参加学生を対象とした「教育シンポジウム」を企画させていただきました。「特別講演」は歯科保健医療国際協力協議会とも深い関係を持つミャンマー、マンダレー歯科大学の Kyu Kyu Swe Win 教授にお願いいたしました。

大会 2 日目には私自身も歯科保健医療国際協力協議会の 30 年を振り返る話を「大会長講演」としてさせていただきますが、国際協力に興味を持つ歯科学学生や歯科医師さらには 30 年間にわたって本会にかかわった大勢の方々に参加していただければ幸いです。

JAICOH 学術集会 30 周年記念に寄せて

歯科保健医療国際協力協議会 会長
宮田 隆

私はよく「わずか 20 万円の年間予算で運営する ^{こころざし} 志 高き団体の会長です」と自虐的に自分自身を紹介します。国際医療貢献、あるいは国際協力を掲げた学術団体(学術という言葉には抵抗がありますが)は恐らく日本では JAICOH だけで、世界的に言ってもあまり類を見ません。なぜ、類を見ないか、というとそもそも国際医療貢献・協力は「学問」として成立しないからです。公衆衛生とか口腔衛生などはグローバルな視点から「健康や疾病」を分析、解析し、ある施策を提言する立場にいますが、国際医療貢献・協力にはその道筋があまりに多様でかつ「心」という曖昧なものに導かれ達成するものですから、例えばベースラインを引いて成果を評価する Evidence を構築しにくい宿命にあるのです。ですから、国際医療貢献・協りに携わる方々は「子どもたちの笑顔が素敵だった」とか「みんなのやる気を身近に感じた」と言った主観的な心の満足に陥りやすく、客観的な評価基準が作れないのが現状です。外務省や JICA などは、それを数値化して下さい、と平気で要求してきますが、皆さんは心の悲しみや喜びを数値化できますか? 「今日の落語は笑ったねえ。10 点満点の 7 点だったよ」面白いけど、馬鹿げています。JAICOH はそんな「心」を愛おしみ、大切に、皆で途上国の人々の健康のために何かやってみようよ、という人たちの集まりです。そして、皆様がやってきた事、例えばこんな風に住民と接したら、こんな成果が得られたよ、という「体験」を共有するのが、この学術集会の目的です。この 20 万円はわずか 20 万円ですが、されど 20 万円なのです。そんな事を考えながら三十年という歳月が過ぎました。当初は JAICOH 自ら公的資金を得てプロジェクトを実施した時代もありましたが、それでは一 NGO に過ぎない、という反省から深井会長の時代に歯科系の NGO を取りまとめる団体として大きく舵を切りました。それは新たな潮流として確実に定着してきます。その成果の一つがこの度の記念誌に掲載された「NGO ダイレクトリ」です。これは歯科・口腔保健分野で活躍する NGO を JAICOH が取りまとめたものですが、これから国際医療貢献したいと思っている皆様にとって、どの国で、どんな活動をしたいかを知る素晴らしい道標になると思います。最後に、国際医療貢献・協力を志す皆様に一言。この活動を皆様が満足できる秘訣はただ一つ。それは「対価を求めない」事です。清らかで透明な心が必要なのです。

JAICOH 30周年を祝う

歯科保健医療国際協力協議会 初代 会長
アジア歯科保健推進基金 (AOHPF)
代表 村居 正雄

30周年おめでとうございます。もう30年になるのか？というのが正直な実感です。

1990年(平成2年)9月16日、それまで個々に活動していた歯科保健医療協力を目指す人々・NGOが一堂に会して、歯科保健医療国際協力協議会(Japan Association of International Cooperation for Oral Health・JAICOH)を設立しました。

各NGOは、それぞれに生き立ちがあり、思いがあります。それはそれで尊重しながらお互いの活動の情報交換や研修会を開催する。さらに、厚生省(後の厚生労働省)、JICA、日本歯科医師会などに対して、歯科保健分野の国際協力をアピールする。国際保健医療学会、公衆衛生学会、口腔衛生学会などで、それぞれのNGOが活動成果を発表する。歯科業界誌や新聞などで国際協力の面白さや喜びを紹介しよう。そして、大学の歯科医学教育に国際保健医療協力を位置付けたいという共通の思いが設立の根底にありました。

2000年6月に深井先生に会長をバトンタッチするまでの10年間に、歯科保健国際協力の意義をJAICOHとして世に問うた文献を以下に列記します。大学図書館等で検索して、読んでいただければ幸いです。

1. 歯科保健国際協力で協議会設立 日本歯科新聞 1990年9月25日号
2. 歯科保健国際協力時代の幕開け：村居正雄 日本歯科評論 1990年11月号
3. 座談会：眞木吉信、村居正雄他「援助ではなく協力—楽しい国際協力を考えよう」
歯科ペンクラブ Vol.369~370, 1992
4. 医療に恵まれないところでの歯科保健の手引き マレイ・ディクソン著、
歯科保健医療国際協力協議会訳 (財)口腔保健協会 1992年、2015年改訂
5. 国際協力におけるPriorityと歯科口腔保健：半田祐二郎 日本歯科評論
1992年No.602, 22~24
6. 国際協力のこころ：村居正雄 日歯広報1993年7月5日、15日、25日、
8月5日
7. 国際協力事始め：村居正雄 松風・デンタルエコー No.93(!993)~No.100(1995)
8. 地球規模で考える口腔保健医療：眞木吉信 日歯会誌 1994年 Vol.47, 714~724
9. 座談会：石井拓男、村居正雄他「歯科保健分野の国際協力について—その現状と
将来展望」 日本歯科評論 1998年5月号
10. 日本口腔衛生学会総会において、1991年~2000年まで毎年、JAICOHが主催して
国際保健に関する自由集会を開催した。

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) と JAICOH

歯科保健医療国際協力協議会 第2代 会長

深井保健科学研究所

深井 穂博

世界人口は、75 億 4, 900 万人を超え、1 年間に6 千万人が亡くなり、1 億3 千万人が生まれる。毎年で約 7 千万人の人口が増加し、この人々に、食事、教育、住居、保健医療サービスなどが基本的人権の観点から提供される社会を目指さなければならない。この人口増加は、世界の合計特殊出生率が 2.0 に近づく 2050 年から 2100 年まで続く (UN, World Population Prospects, 2015)。もう一つの課題は、グローバルに進む高齢化である。2050 年の高齢化率 (65 歳以上) は、高所得国で 28%、上位中所得国で 22%、下位中所得国で 11%、低所得国で 7%と予測されている。生物学的にみて、高齢になるほど病気に罹りやすく、フレイルに陥りやすくなるので、保健医療サービスのニーズは高まる。特に世界人口の中でアジアの人口は、世界の約 60%を占めるのでその対策の必要性は高い。

このような課題を背景として、2015 年 9 月の国連サミットで持続可能な開発のための 2030 アジェンダが採択された。2001 年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継と位置づけられている。この持続可能な開発目標 (SDGs) とは、2016 年から 2030 年までの国際目標であり、持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成されている。その理念は、地球上の誰一人として取り残されない (No one will be left behind) 社会を目指すことである。この 17 のゴールの一つに健康・福祉に関する目標 (ゴール 3) がある。この中で、歯科医療・口腔保健の課題と直結するターゲットが、非感染性疾患 (NCDs) の予防とユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) の達成である。UHC とは「すべての人が、適切な健康増進、予防、治療、機能回復に関するサービスを、支払い可能な費用で受けられる」ことを意味し、すべての人が経済的な困難を伴うことなく保健医療サービスを享受することを目指している。そして全ての地域住民 (Health for All: HFA) が基本的な保健医療サービス (プライマリ・ヘルスケア:PHC) を受けられる社会を目指すアルマ・アタ宣言 (1978 年) を強化するアスタナ宣言が 2018 年 10 月に発出されている。

1990 年に J A I C O H が設立されて以来、約 30 年が経過した。この間、世界の状況も、歯科口腔保健の健康長寿に関わるアウトカムをめぐる議論もエビデンスに基づいて大きく発展してきている。経済発展からみると、中所得国に暮らす人々は 50 億人を超え世界人口の 70%以上を占める。すでに、開発途上国と発展途上国という単純な区分も通用しなくなってきた。むしろ、高所得国においても、低所得国および中所得国においても、それぞれの国や地域が抱えている財政的資源、人的資源の制約の中で、UHC に向けたチャレンジが進んできている。このプロセスは共通したステップで行われるものであり、その中でお互いが学び合わなければならない時代である (図 1)。

歯科口腔保健は、食事やコミュニケーションという社会性に関わる健康課題であり、ど

のような国、どのような地域においても人々の基本的人権である。しかも、多分野で連携して取り組むことでその成果が期待できる。UHCにおける歯科口腔保健の位置づけを強化するための関係者の連携が一層必要である。

ステップ1 ニーズ・アセスメントとモニタリング	ステップ2 適正なヘルスシステムと提供体制の決定	ステップ3 基本的人権に基づくグローバルな口腔疾病負担の軽減	ステップ4 健康長寿社会の実現と口腔保健からの貢献
<ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔保健の評価指標の開発とヘルスケアニーズの評価 2. 口腔保健人的資源とヘルスケアシステムに関するデータ集積 3. 継続的データの集積と共有 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 政策決定者に対する政策効果のエビデンス提示 2. 持続可能なシステム構築のための多職種・多分野連携(NCDs予防におけるコモンリスクファクターアプローチ等) 3. 口腔保健の価値及び評価に関する人々の気づき 4. 口腔と全身の健康に関わる統合的なシステム構築による口腔保健システムの改善 	<ol style="list-style-type: none"> 1. エビデンスに基づく口腔保健プログラム 2. 歯の喪失と口腔疾患の予防・重症化防止 3. NCDsとフレイルの口腔保健リスクの軽減 4. 健康格差是正への貢献 5. 健康政策の強化 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全身・口腔の健康の価値の共有 2. 健康な地域におけるアクティブ・エイジング 3. より効果的で効率的なヘルスケアシステムの追求 4. 継続的な健康格差のモニタリング

図1.高齢社会における口腔保健達成のための4つのステップ

Fukai K et al. Int Dent J 2017; 67

文献

1. United Nations, World Population Prospects, 2015
2. World Health Organization. World report on Ageing and Health, 2015
3. Foreman KJ et al. Forecasting life expectancy, years of life lost, and all-cause and cause-specific mortality for 250 causes of death: reference and alternative scenarios for 2016-40 for 195 countries and territories. Lancet. 2018 Nov 10; 392(10159): 2052-2090
4. Fukai K et al. Oral health for healthy longevity in an ageing society: Maintaining momentum and moving forward. Int Dent J. 2017 Sep;67 Suppl 2:3-6

JAICOH 活動推進のために

歯科保健医療国際協力協議会 第3代 会長

東京医科歯科大学大学院

非常勤講師 白田 千代子

はじめに

JAICOH 創立以来会員として参加していることで、国内外の支援活動に多くの学びや協力をいただいていた。そして、20周年を迎えた後の JAICOH の活動支援のために、4年間運営に携わることになった。新たな JAICOH 執行委員達と当時は運営するための基盤を整え、公開講座や研修会を開催するために活動すればするほど問題が増加していったが、今思えば大変有意義な活動の期間であった。それは、綿密な計画と遂行する力を備えた委員が JAICOH を執行していたからと思わずにはいられない。この場を借りて、30周年を迎えるに当たり、会を運営してきた委員に感謝をしたい。

会員の活動から学ぶ

JAICOH の総会で、各活動グループの発表を通して学びあうことや、それぞれのグループの活動の技術を知ることができる。また、各グループとの交流を通して、新たな活動を生み出したりしている。活動地域は、アジア地域が多いが、アフリカ、南アメリカ、アフリカでの活動経験を持つ会員の参加もあった。活動を大まかに示すと、専門家の教育（教育者の育成等）活動、地域住民活動、医療施設内での活動に分類される。しかし、活動が長年継続しているグループがほとんどで、新に活動を開始したグループの参加が目立たなくなっていたことは、新しく活動するグループが少ないのか、新しい活動グループが参加しにくい問題が JAICOH にあるのかなど心配したこともあった。

活動には興味を持つが

過去には、歯科関係の教育機関には海外との交流活動をするグループがあり、国内外で活動をしていた。これらの学生は自主活動やグループ活動を実践するなどエネルギー溢れる面々であり、JAICOH の事業に活発に参加していた。10年前頃から、少数であるが、医療分野の大学では「国際保健医療・・・」などの授業や講義が行われるようになり、大学のシラバスの中に国際保健医療を意識した授業が企画されるようになった。このころから、国際活動について受身の学生が増加し、年3回開催していた公開講座や研究会に参加はするが、会員になる者は少数であるし、新たな活動グループの会員の参加も見られなくなっていた。公開講座に興味を示しても、実際に活動するのは難しいという人が目立った。

おわりに

多くの会員は、自己研鑽をはかり自分の心や技術を高めるためにも海外で活動をしてきた結果が、海外の方々に役立つことになることをなったらと願いつつ活動してきている。会の平均年齢を高めないために、活動が継続するために、学生のころから、海外での活動に興味を持つ人材に JAICOH の存在を明示し、会に参加してもらうよう歯科大学や歯科衛生士学校にも会の活動を啓発してきたが、今後も継続実施していくことを願っている。

30周年学術集会を記念して

歯科保健医療国際協力協議会 第4代 会長
南太平洋医療隊 代表
カワムラ歯科医院
河村 康二

2014年7月から2期4年間、歯科保健医療国際協力協議会（以下 JAICOH と略す）の会員の皆様にご協力を頂き、会長職を務めさせて頂きました南太平洋医療隊の河村康二です。

JAICOH がここに30周年を迎えることができ、大変喜ばしい限りでございます。会員の皆様と共にこれからも歯科から保健・医療を通して発展途上国のために国際貢献に寄与し、より多くの人々が健康の向上が得られる様に活動し喜びを分かち合っていきたいと考えています。

私は白田前会長から、若手が運営出来るような体制作りと女性が輝けるように、との申し伝えから、歯科医師や歯科衛生士さん達に企画から参加をお願いし事務局体制を作り推進していきました。4年間で若手が運営の中心となる事務局体制が形づくり、研修会も開催も出来るようになりました。歯科からの国際貢献活動を継続して行くためにはその担い手の育成が大切だと認識しています。若手育成の一環として、JAICOH への学生参加を歓迎し継続を容易にする為に、学生同士の横の繋がりを強化し JAICOH 内に学生組織の構築が必要と思います。幸い、先の理事会で以前のシーズプロジェクトを進歩した形で予算の復活を致しました。私も含め皆様は日常の生活や仕事や研究を行いながら国際社会に貢献したいという意志から活動しているのだと思います。志は高いがなかなか会には参加するのは大変と感じ歯科界を取り巻く情勢も厳しい事はありますが、社会全体としてはグローバル化や国際貢献をしたい若者は増加していると考えられます。忙しい日々の中、より一層の活動が期待される今日、多くの方が参加出来るような会になればと考えています。

新しい執行部の下で会が繁栄し、多くの国際貢献をする団体の参加と若手歯科医師、歯科衛生士さんの活躍の場、学生の集約が出来ていければと考えています。JAICOH の発展と発展途上国の歯科保健の向上のため応援していきたいと思っております。皆様のご指導ご鞭撻をお願い致します。



プログラム

【7月6日（土）】

開会式
(12:50～)

教育シンポジウム
(13:20～14:50)

座長：谷口健太郎
(東京歯科大学社会歯科学講座)

シンポジスト：阿部智
(千葉市市議会議員)
『学生時代に涵養する人生開拓力』

門井謙典
(兵庫医科大学歯科口腔外科学講座)
『国際保健と災害医療について』

特別講演
(15:00～16:30)

座長：眞木吉信
(東京歯科大学衛生学講座 名誉教授, JAICOH 副会長)

演者：Prof. Kyu Kyu Swe Win
(Professor & Head, Department of Oral and Maxillofacial Surgery,
University of Dental Medicine, Mandalay, Myanmar)

【7月7日（日）】

理事会・実行委員会

(8:30～)

受付開始

(8:50～)

大会長講演

(9:30～10:40)

座長：阿部智

(千葉市市議会議員)

大会長：眞木吉信

(東京歯科大学衛生学講座 名誉教授, JAICOH 副会長)

一般口演（第Ⅰ・Ⅱ部）

(10:40～11:50)

第Ⅰ部 (10:40～)

座長：浅野一磨 (国保旭中央病院 歯科・歯科口腔外科)

1. 国際歯科保健活動への学生の関わり方

○伊東紘世¹⁾, 河村忠将¹⁾, 鈴木悠斗¹⁾, 田中颯¹⁾, 眞木吉信^{1),2)}

- 1) 東京歯科大学国際医療研究会
- 2) 東京歯科大学衛生学講座

2. 近年の国際医療研究会における APDSA 部門の活動

○河村忠将¹⁾

- 1) 東京歯科大学国際医療研究会

3. 第18次ミャンマースタディーツアー事業報告

○宇梶淳平¹⁾, 林真由子¹⁾, 鈴木悠斗¹⁾, 田中颯¹⁾, 眞木吉信^{1),2)}

- 1) 東京歯科大学国際医療研究会
- 2) 東京歯科大学衛生学講座

第Ⅱ部 (11:20～)

座長：竹内麗理（日本大学松戸歯学部 生化学・分子生物学講座）

4. カンボジア王国における歯科学生への僻地診療体験プログラムの取り組み

○谷野弦^{1),2),3)}，久家理恵¹⁾，持田寿光¹⁾，渡辺一騎¹⁾，佐藤緑¹⁾，
佐藤貴映¹⁾，馬場安彦¹⁾，高山史年¹⁾，小峰一雄¹⁾，宮田隆¹⁾

- 1) 歯科医学教育国際支援機構，
- 2) 名戸ヶ谷病院
- 3) 日本大学松戸歯学部口腔外科学

5. ラオス人民共和国、カムアン県・サワンナケート県での口腔衛生教育活動の取り組み

○久家理恵^{1),2)}，谷野弦¹⁾，持田寿光¹⁾，渡辺一騎¹⁾，佐藤緑¹⁾，佐藤貴映¹⁾，
馬場安彦¹⁾，高山史年¹⁾，小峰一雄¹⁾，宮田隆¹⁾

- 1) 歯科医学教育国際支援機構
- 2) 新東京歯科衛生士学校

6. ラオスにおける歯科技工士養成プログラムを運営して

○佐藤貴映^{1),2),3)}，持田寿光¹⁾，佐藤緑^{1),2)}，渡辺一騎¹⁾，谷野弦¹⁾，
久家理恵¹⁾，高山史年¹⁾，小峰一雄¹⁾，宮田隆¹⁾

- 1) 歯科医学教育国際支援機構
- 2) ひかり歯科クリニック
- 3) 明海大学歯学部病態診断治療学講座薬理学分野

総会

(13:10～13:40)

一般口演（第Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ部） (13:40～15:10)

第Ⅲ部（13:40～）

座長：村田千年（マリーナ歯科クリニック）

7. 日露医学歯科医学交流について

○夏目長門^{1), 2), 3), 4), 5)}

- 1) ロシア国立モスクワ第一医科大学
- 2) 特定非営利活動法人 日本医学歯学情報機構
- 3) 国連認定・認定特定非営利活動法人 日本口唇口蓋裂協会
- 4) 愛知学院大学歯学部附属病院 口唇口蓋裂センター
- 5) 愛知学院大学歯学部附属病院 口腔先天異常学研究室

8. ネパールにおける地域保健活動～自立と持続を目指して～

○根木規予子¹⁾，白田千代子¹⁾，深井稔博¹⁾，中村修一¹⁾

- 1) ネパール歯科医療協力会

9. 「債務の罫」「宗教間対立」の問題を抱えるスリランカとその歯科領域

○近藤（志賀）千尋¹⁾

- 1) 近藤歯科

第Ⅳ部（14:20～）

座長：遠藤眞美（日本大学松戸歯学部 障害者歯科学講座）

10. 口腔ケアを通じた国際貢献

○夏目長門^{1), 2), 4)}，森悦秀^{1), 3)}

- 1) 一般社団法人 日本口腔ケア学会
- 2) 愛知学院大学歯学部附属病院 口腔ケア外来部門
- 3) 九州大学大学院歯学研究院 口腔顎顔面外科学分野
- 4) 愛知学院大学歯学部 口腔先天異常学研究室

11. 最近のモンゴル歯科事情

○黒田耕平¹⁾

- 1) 日本モンゴル文化経済交流協会

第V部 (14:40～)

座長：谷野弦（歯科医学教育国際支援機構，名戸ヶ谷病院）

12. 新東京歯科衛生士学校での国際教育について

○川島貴重^{1),2)}，久家理恵^{1),2)}，谷野弦¹⁾，持田寿光¹⁾，渡辺一騎¹⁾，
佐藤緑¹⁾，佐藤貴映¹⁾，馬場安彦¹⁾，高山史年¹⁾，小峰一雄¹⁾，宮田隆¹⁾

- 1) 歯科医学教育国際支援機構
- 2) 新東京歯科衛生士学校

13. 歯科医療従事者にできる新たな国際保健活動への貢献のかたち（パート3）

○馬場安彦¹⁾，高山史年¹⁾，谷野弦¹⁾，宮田隆¹⁾

- 1) 歯科医学教育国際支援機構

14. 公衆衛生と1次予防と国際保健

○相田潤¹⁾，遠藤 眞美^{2),3)}，河村 康二^{3),4)}

- 1) 東北大学大学院歯学研究科 国際歯科保健学分野
- 2) 日本大学 松戸歯学部 障害者歯科学講座
- 3) 南太平洋医療隊
- 4) カワムラ歯科医院

招待講演 (15:20～16:00)

座長：宮田 隆

（歯科医学教育国際支援機構 理事長，JAICOH 会長）

演者：Dr. Aloungnadheth Sitthiphanh

(Vice President of Lao Dental Association,
Former Vice President of University of Health Sciences)

閉会式 (16:00～)



抄 錄

一般口演

I-1

国際歯科保健活動への学生の関わり方

○伊東紘世¹⁾, 河村忠将¹⁾, 鈴木悠斗¹⁾, 田中颯¹⁾, 眞木吉信^{1),2)}

- 1) 東京歯科大学国際医療研究会
- 2) 東京歯科大学衛生学講座

東京歯科大学国際医療研究会では現在までに18回のスタディーツアーを実施し、アンケート調査やボランティア活動などの国際歯科保健活動を行い、また国際交流の場としてAPDSAへの参加も行ってきた。他大学にも国際歯科保健・国際交流を目的とした部活・クラブが存在しており、我々の蓄積してきた経験や反省点を国際活動を実施または実施予定の学生と共有することで、更なる有意義な活動に進化させることを目的としている。

その1つとして、現在までにスタディーツアーやAPDSAで実施してきた活動を通じて学生間で行った事業の内容紹介を行う。

また前回の福岡における学術集会にて発表を行った、学生が海外において活動する上での注意事項をまとめたブックレット“Handbook for Student Activities”のアップデートも併せて発表する。

今回の発表ではそれらの点を中心に、学生の観点から国際歯科保健活動・国際交流活動について述べたいと思う。

I -1

How students relate to international dental health activities.

○Kosei Ito¹⁾, Tadamasa Kawamura¹⁾, Yuto Suzuki¹⁾, Ryu Tanaka¹⁾, Yoshinobu Maki^{1),2)}

1) Student society of Tokyo Dental College for international oral health

2) Hygiene and Community Dentistry, Tokyo Dental College

Student Society of Tokyo Dental College did 18 times of study tours so far, conducting global oral health activities such as questionnaire survey, health volunteering and participation with the aim of international exchange programs like APDSA. There are several societies aiming global oral health activities or international exchange in other colleges and universities, so attending APDSA and sharing our experiences and reflection point with other society who conducted or will conduct global oral health activities is helpful for our activities.

As one of them, we will introduce the contents of the project that we have conducting among the students through the activities that we have carried out in the study tour and APDSA . In addition, a booklet "Handbook for Student Activities", which was published at the last academic meeting in Fukuoka, and which contains notes on students' activities abroad, was also announced in conjunction with the second version including the previous improvements. In this presentation, I would like to describe international dental health activities and international exchange activities from the student's point of view.

I-2

近年の国際医療研究会における APDSA 部門の活動

○河村忠将¹⁾

1) 東京歯科大学国際医療研究会

東京歯科大学国際医療研究会はその活動の多様さから、活動ごとに責任者を設置し部門として活動を行っており、2019 年現在国内や学内で活動を行う部門が 3 部門、海外での活動を行う部門が 2 部門の計 5 部門から構成されている。

APDSA (Asia Pacific Dental Students Association、アジア太平洋歯科学学生会議) は参加大学数が多岐にわたり、参加登録等も個人で実施するというクラブ活動の一つとしてはまれな活動ではあるが、我々は国際医療研究会の特色である部門制度を活かし、他部門との交流や情報交換、また海外渡航前の準備活動など参加学生への支援を行っている。

今回はその内の一つである APDSA 部門を中心に学内での活動や、APDSA Annual Congress での活動についての報告および紹介を行う。

I-2

“Recent Activity of APDSA in Student Society of Tokyo Dental College for International Oral Health”

○Tadamasa Kawamura¹⁾

1) Student Society of Tokyo Dental College for International Oral health

Our club, Student society of Tokyo Dental College for international oral health, have a system to build departments for each activity in this club and assign a representative for each department. We have 5 departments, 3 of 5 departments are for domestic activities, the rest are for international activities, APDSA and study tour.

APDSA, Asia Pacific Dental Students Association, involves various universities in Japan and Asia, and requires us to make registration and payment by ourselves, which is quite unique for club activities. To make this into consideration and take advantage of our system, we support our delegates before and after joining annual congress, such as interaction between other department in our club and exchange of information with delegates and other universities.

Throughout this presentation, I'm going to introduce about the system in our club and report for the annual congress for APDSA.

I-3

第 18 次ミャンマースタディーツアー事業報告

○宇梶淳平¹⁾，林真由子¹⁾，鈴木悠斗¹⁾，田中颯¹⁾，眞木吉信^{1,2)}

1) 東京歯科大学国際医療研究会

2) 東京歯科大学衛生学講座

【事業概要】

期 間：2019 年 3 月 18 日－3 月 23 日

活動場所：ミャンマー（ヤンゴン、マンダレー）

訪問場所：University Dental Medicine-Yangon,

University of Dental Medicine-Mandalay

活動内容：今回で 18 回目となる本事業ではミャンマーを訪問した。この企画では、全ての学年の学生を参加の対象としているため、歯学部学生としては非常に早い段階から国際協力に興味や関心を持つことが可能になる。今回は現地においてミャンマーの国立歯学部・大学付属病院見学及びミャンマーで活動している日本人歯科医師、松本敏秀先生との交流により日本人歯科医師が発展途上国でどのような貢献ができるかを学んだ。学生が主体となって国際協力について考えた本事業の活動報告およびその考察について発表する。

18 th Study Tour for Community Oral Health Care in Myanmar

○Junpei Ukaji¹⁾, Mayuko Hayashi¹⁾, Yuto Suzuki¹⁾, Ryu Tanaka¹⁾, Yoshinobu Maki^{1),2)}

1) Student Association of Tokyo Dental College for International Oral Health

2) Hygiene and Community Dentistry, Tokyo Dental College

【Outline of this project】

Period: 18-24 March 2019

Visited country: Myanmar (Yangon, Mandalay)

Visited places: University Dental Medicine-Yangon, University of Dental Medicine-Mandalay

Study tour has played the role of a chance for studying international cooperation for students. In this 18th study tour, we visited Myanmar for six days. Four students in Tokyo Dental College joined this program, and visited University Dental Medicine-Yangon, University of Dental Medicine-Mandalay. We also met with Dr. Toshihide Matsumoto, who have engaged in dental volunteer activities in Myanmar for several years. We will introduce what we studied from dental university in Myanmar and Dr. Matsumoto.

II-4

カンボジア王国における歯科学生への僻地診療体験プログラムの取り組み

○谷野弦^{1),2),3)}, 久家理恵¹⁾, 持田寿光¹⁾, 渡辺一騎¹⁾, 佐藤緑¹⁾, 佐藤貴映¹⁾, 馬場安彦¹⁾, 高山史年¹⁾, 小峰一雄¹⁾, 宮田隆¹⁾

- 1) 歯科医学教育国際支援機構,
- 2) 名戸ヶ谷病院
- 3) 日本大学松戸歯学部口腔外科学

緒言: OISDE は歯科医療を通して世界の医療に恵まれない国々への口腔保健の普及とその国々の歯科医療を担う歯科関係者の教育を目的としています。当団体では将来のカンボジア王国で歯科医師になる歯学生のモチベーションに寄与し医療の不平等解消のために僻地診療体験プログラム (Students Experiences Tour in Rural Area : SETRA) を企画、実施している。今回は本活動に関する報告を行う。

活動内容: 2009年よりモンドルキリ県を中心とし約25回 SETRA を実施してきた。診療内容は抜歯やスケーリング、充填処置を中心とし住民へ口腔保健の啓蒙活動を行った。

成果および今後の課題: 無歯科医県であったモンドルキリ県に歯科医療に従事する歯科医師が赴任した。また、OISDE が育成した歯科医師が独自のボランティアグループ設立し僻地で活動を行うようになった。しかし、未だに多くの歯科医師は大都市部に偏在し医療格差が生じている。今後は更なる僻地医療へのモチベーションに寄与するために SETRA の継続や僻地医療の教育システムをヘルス・サイエンス大学歯学部のカリキュラムに導入し恒久的に僻地医療の教育の場の構築を図る。

II-4

Introduction of Student experience tour in rural area in Kingdom of Cambodia

○Gen Yano^{1), 2), 3)}, Rie Kuge¹⁾, Toshimitsu Mochida¹⁾, Ikki Watanabe¹⁾, Midori Satoh¹⁾, Takao Satoh¹⁾, Yasuhiko Baba¹⁾, Fumitoshi Takayama¹⁾, Kazuo Komine¹⁾, Takashi Miyata¹⁾

1) Organization of International Support for Dental Education: OISDE

2) Nadogaya Hospital, Kashiwa, Japan

3) Department of Oral Surgery, Nihon University Dentistry at Mastudo

INTRODUCTION: The purpose of OISDE is the popularization of oral health and the education for the person who works medical and dental field in the developing country. OISDE is planning and implementing the Students Experiences Tour in Rural Area (SETRA) in order to eliminate medical inequalities, contributing to the motivation of dental students who will be dentists in the future in the Kingdom of Cambodia. In this time, we would like to make a presentation about SETRA.

ACTIVITIES: Since 2009, we have carried out about 25 times SETRA, mainly in Mondulkiri province. The contents of medical care were tooth extraction, scaling, and filling and so on. And also carried out educational activities for oral health to the residents.

CONCLUSIONS and FUTURE ACTIVITIES: Some dentists were assigned to Mondulkiri province, which was a non-dentist province. In addition, dentists educated by OISDE have set up their own volunteer groups and started to work in rural areas. However, medical inequalities are occurring because many dentists are still in large cities. In the future, we will continue SETRA in order to contribute to the motivation for dentistry in the rural area. We would like to introduce SETRA into the curriculum of University of Health Sciences to ensure sustainability.

Ⅱ-5

ラオス人民共和国、カムアン県・サワンナケート県での口腔衛生教育活動の取り組み

○久家理恵^{1),2)}, 谷野弦¹⁾, 持田寿光¹⁾, 渡辺一騎¹⁾, 佐藤緑¹⁾, 佐藤貴映¹⁾,
馬場安彦¹⁾, 高山史年¹⁾, 小峰一雄¹⁾, 宮田隆¹⁾

1) 歯科医学教育国際支援機構

2) 新東京歯科衛生士学校

【緒言】当法人では2013年からデンタルナースシステムを有していない、ラオスの南部に位置する両県にて看護師および看護学生に対する口腔衛生教育を実施した。今回はその成果を報告する。

【目的】両県にて口腔保健の知識・技術を看護師および看護学生への移転、また地域住民に対する口腔保健の教育を行い、ラオスにおける口腔保健サービスの構築を行うことを目的とする。

【活動内容】看護師および看護学生に対し日本人専門家が講義や実習をおこなった。そして、技術を習得した看護師、看護学生が口腔保健活動を行い地元住民の口腔環境の改善を図った。

【考察】我々の活動により看護師への口腔保健の技術移転が行われ、看護学校では口腔保健のカリキュラムが開始された。しかし、両県の看護師は口腔衛生教育活動に対して受動的な者もみられた。看護師自身に十分に理解してもらえるよう日本人専門家がどう口腔衛生教育を実施するのかがラオスの口腔保健の普及には重要だと考えられる。また、我々の支援を終えた時の継続性や自立性を担保する必要がある。

II-5

Oral hygiene education activities in Khammuane Province and Savannakhet Province

○Rie Kuge^{1),2)}, Gen Yano¹⁾, Toshimitsu Mochida¹⁾, Ikki Watanabe¹⁾, Midori Satoh¹⁾, Takao Satoh¹⁾, Yasuhiko Baba¹⁾, Fumitoshi Takayama¹⁾, Kazuo Komine¹⁾, Takashi Miyata¹⁾

1) Organization of International Support for Dental Education: OISDE

2) Shin Tokyo Dental Hygienist School

Introduction: OISDE has been conducting to provide educational activities on oral hygiene since 2013, as using the grant assistance program called Official Development Assistance for Japanese NGO Projects supported by Ministry of Foreign Affairs of Japan, for nurses and nursing students in Khammuane Province and Savannakhet Province located in the southern part of the Lao People's Democratic Republic (Lao PDR), where there had not been any dental nurse systems existed before.

Objective: To construct the oral health services in Lao PDR, by introducing our knowledge and technologies of oral health to the local nurses and nursing students and by providing educational training of oral health to the local people in Khammuane Province and Savannakhet Province.

Activities: Providing educational support of oral health care has been conducted, such as giving lectures, field work, and practical trainings for the nurses who work at Health Center and nursing students who go to the Public Nursing School.

Conclusion: Through our activities, the technology transfer of oral health was carried out, and the oral health curriculum was started in the nursing school. However, in order for us to structure and establish oral health service, people who get the benefit should be shifted from passive position to active position to the oral hygiene education activities. We will continue transferring the skills and knowledge about how oral health impact systematic disorders, and it is necessary to assure the continuity and independence of the transferred skills and knowledge after we have completed our support.

II-6

ラオスにおける歯科技工士養成プログラムを運営して

○佐藤貴映^{1),2),3)}, 持田寿光¹⁾, 佐藤緑^{1),2)}, 渡辺一騎¹⁾, 谷野弦¹⁾, 久家理恵¹⁾, 高山史年¹⁾, 小峰一雄¹⁾, 宮田隆¹⁾

- 1) 歯科医学教育国際支援機構
- 2) ひかり歯科クリニック
- 3) 明海大学歯学部病態診断治療学講座薬理学分野

【緒言】歯科医学教育支援機構(OISDE)は外務省・日本 NGO 連携無償資金協力を採択されラオス人民民主共和国にて活動中である。活動の1つは地方における看護師・看護学生に対する歯科・口腔保健教育であり, 2つ目は, 地方のヘルスセンターにおける検診活動のサポートである。3つ目として, ヘルスサイエンス大学(以下 UHS)歯学部をカウンターパートナーとし, 2016年9月に歯科技工士養成プログラムを開設した。UHS 歯学部補綴科の担当教員に技術移転するとともに, 学生に対し, 歯科技工の知識や技能の講義, 実習を行い, ラオス人民民主共和国における歯科技工士制度の整備を目的としている。

【活動内容】2016年9月の歯科技工士養成プログラムを開設し, UHS 歯学部補綴科の担当教員と共にカリキュラムや必要資器材のブラッシュアップを行いながら, 学生に義歯作製のための実習を行っている。2019年3月には検診会場で即時義歯作製の実習を行った。

【結論】2016年に歯科技工士養成プログラムを開設し, 学生に対しては, 歯科技工の知識や技能の講義, 実習を行い, 即時義歯作製のための実習を行っている。今までの地方における歯科診療は, ほとんどが抜歯のみで終わっていたが, 今回育成されている歯科技工士が検診会場で即時義歯を作製することが可能になった。その場で患者に義歯を装着できることで, ラオス人民民主共和国国民の更なる口腔環境の保全, 向上が期待できるようになった。

II-6

Operate a Dental Technician program, Lao PDR.

○Takao Satoh^{1),2),3)}, Toshimitsu Mochida¹⁾, Midori Satoh^{1),2)}, Ikki Watanabe¹⁾,
Gen Yano¹⁾, Rie kuge¹⁾, Fumitoshi Takayama¹⁾, Kazuo Komine¹⁾, Takashi Miyata¹⁾

1) Organization of International Support for Dental Education: OISDE,

2) Hikari Dental Clinic, wakou city, Japan

3) Department of Pharmacology, Meikai University Dentistry

INTRODUCTION

OISDE is adopted by the Grant Assistance for Japanese NGO Projects supported by ministry of foreign affairs and is active in the Lao P.D.R. The University of Health Science Lao P.D.R. (following UHS) school of dentistry with a counter partner and will establish a dental technician training program. A dental technician training program is established in September, 2016. We establish a dental technician system in the Lao P.D.R. and can connect to the improvement of dentistry, the disease of oral cavity health practice of the Laotian nation.

ACTIVITIES

A dental technician training program start of September, 2016, and we chose a curriculum and necessary material. We perform a lecture, training of the dental dissection for a student while brushing up a curriculum and the necessary material after dental technician training program establishment with UHS. In March 2019, we took out tools for making dentures out of school. We practiced the practice of making dentures at the medical checkup site.

CONCLUSIONS:

We have established a dental technician training program and are transferring knowledge and skills of dental technicians to the teaching staff in charge of prosthetics at UHS. For students, we have built a system for fostering human resources who can practice denture creation, lectures of dental technicians for later development, and practice.

Until now, dental treatment in local areas ended with tooth extraction at the medical examination site. The patient's oral environment did not improve and was destroyed. This time, it has become possible for the trained dental technician to create a denture at the screening site. By being able to wear a denture to the patient on the spot, it can be expected to lead to the preservation of the oral environment further.

Ⅲ-7

日露医学歯科医学交流について

○夏目長門^{1), 2), 3), 4), 5)}

- 1) ロシア国立モスクワ第一医科大学
- 2) 特定非営利活動法人 日本医学歯学情報機構
- 3) 国連認定・認定特定非営利活動法人 日本口唇口蓋裂協会
- 4) 愛知学院大学歯学部附属病院 口唇口蓋裂センター
- 5) 愛知学院大学歯学部附属病院 口腔先天異常学研究室

日本とロシアにおいては北方領土の問題を抱えており、まだ日露平和条約は締結されておらず、戦後は終わっていない。

日露の医学医療交流は1992年4月、元日本国外務大臣の中山太郎（医師）衆議院議員（当時）が日露医学医療交流財団を設立して、同年9月にシベリア地域医療フォーラムを開催して以降、活動はしているが歯科医学分野も含めた医学歯学の合同の交流はなされていなかった。

そこで2014年より、両国の平和条約の締結の一助となるべく外務省と連携を取って準備を行い、2016年に第一回日本医学歯科医学フォーラムを日本側の会長として実施した。ロシア側は265年の歴史ある同国最高峰のロシア国立モスクワ第一医科大学 Peter V. Glybochko 学長が会長を務めて行われた。

その後も種々の交流を行い、2019年には図書「口唇口蓋裂の理解のために」のロシア語での出版を行った。

2019年3月には同大学客員教授として集中講義を行うとともに、新たな交流について計画を話し合ったので、その概要を報告する。

III-7

Medical and Dental Exchange between Russia and Japan

○Nagato Natsume^{1),2),3),4),5)}

- 1) First Moscow State Medical University, Russia
- 2) Japanese Medical and Dental Network
- 3) Japanese Cleft Palate Foundation
- 4) Cleft Lip and Palate Center, Aichi Gakuin University Dental Hospital
- 5) Division of Research and Treatment for Oral and Maxillofacial Congenital Anomalies, School of Dentistry Aichi Gakuin University

Russia and Japan have not concluded the bilateral peace treaty due to the northern territorial issue, thus the two nations are still in the post war condition.

In April 1992, ex-Foreign Minister of Japan Mr. Taro Nakayama, a medical doctor and member of the House of Representative at that time, founded Japan-Russia Medical Exchange Foundation. He held The Siberian Japan-Russia Medical Forum in 1992.

While the foundation is maintaining their activities, joint forum for medical and dental field had not been promoted. Cooperating with the Ministry of Foreign Affairs, in 2016, I myself hold the first Japan-Russia Medical and Dental Forum as the Japanese-side congress president, while professor Peter V Glybochko, the Rector of First Moscow State Medical University, the best medical university in Russia, served as the Russian-side congress president. After the above forum, there were various bilateral exchanges. In 2019, I published the book titled “Understanding for care of cleft lip and palate“ in Russian.

In March 2019, I visited Russia to give a lecture at First Moscow State Medical University as a visiting professor. On that occasion, I discussed new plan of bilateral exchanges with the Russian-side people.

I will summarize the outcome of the discussion.

Ⅲ-8

ネパールにおける地域保健活動～自立と持続を目指して～

○根木規予子¹⁾，白田千代子¹⁾，深井稔博¹⁾，中村修一¹⁾

1) ネパール歯科医療協力会

ネパール歯科医療協力会は1989年より、これまでに32回の現地活動を行ってきた。初期は歯科診療と調査が中心であった。その後、地域保健活動にシフトし、自立支援活動として、口腔保健専門家養成事業や母子保健活動、高齢者歯科保健活動を展開している。各活動を通じ、学校や地域、暮らしの中で一次予防のための健康教育活動や地域保健事業をネパール人が中心となり行っている。今回は各プロジェクトの垣根を越えた活動を行い、自立に向けた課題などについて協議をした。さらに、活動拠点としているゴダワリ市との間で協働活動の調印に至った。長年の活動の成果である。現在の状況、今後の展望について考察する。

III-8

Community Health Activities in Nepal

~ Aiming for independence and sustainability ~

○Kiyoko Negi, Chiyoko Hakuta, Fukai Kakuhiro, Shuichi Nakamura

1) Association of Dental Cooperation in Nepal

ADCN(Association of Dental Cooperation in Nepal) has conducted 32 local activities since 1989. At the beginning of the activity, we were primarily engaged in dental practice and research, however later, community health activities were mainly conducted. As independent support activities, oral health specialist training programs, mother and child health activities, and elderly health care have been developing.

Through each of these activities, Nepalese people play an important role in health education activities for primary prevention and community health projects in schools, communities and daily life. This time, these activities were conducted beyond the boundaries of each project, and what is necessary for Nepalese people to maintain their own health were also discussed.

Furthermore, Godawari city, which is the base of our activities, and ADCN have signed for a cooperative activity. These were considered to be the result of many years of activity. We herein discuss the current situation and future prospects of the activities.

Ⅲ-9

「債務の罫」「宗教間対立」の問題を抱えるスリランカとその歯科領域

○近藤（志賀）千尋¹⁾

1) 近藤歯科

スリランカ民主社会主義共和国（以下スリランカ）は、インド洋に面した北海道ほどの大きさの島国で、日本にとって地政学的に重要な国である。唯一の歯科医師養成機関であるペラデニア大学は機材が老朽化し、歯学部、実習病院の再整備、及び歯科医療従事者の資質と患者ケアの向上が求められてきた。スリランカ政府から日本国に無償資金協力要請があり、1998年2月から2003年1月までで総額22,45億円のプロジェクトが遂行された。四半世紀に及ぶ内戦が2005年に終結後、復興需要ならびに観光業の復活から、スリランカは経済発展が続いていたが、中国による「債務の罫」から南端、コロンボの港湾が99年租借地、北部の港湾には欧米、インドの影響、またイスラム過激派との宗教間の対立が生じ、問題を抱えている。筆者は、スリランカ首相府の招きにより、ペラデニア大学およびコロンボ、中、東部州の歯科施設を視察する機会を得たので報告する。

III-9

Sri Lanka facing to debt problem, religious conflict is influencing dental industry.

○Chihiro Kondo-Shiga¹⁾

1) Kondo dental clinic

Sri Lanka is an island country in South Asia, located in the Indian Ocean. Although Japanese ODA was carried out from 1998 to 2003 in dental field, Sri Lanka strengthen the relationship with China. Under heavy pressure Sri Lanka's debt was ballooning rapidly, the government struggled to make payments had taken on, handed over the port , transfer gave China control of port territory along critical commercial and military waterway for 99 years. India and US military are now supporting North port in these days. Large countries influence Sri Lanka economy, dental industry is also changed. I had opportunities for inspection tour from 2013 to 2018, Today I'm going to present current status of Sri Lanka and its dentistry.

IV-10

口腔ケアを通じた国際貢献

○夏目長門^{1),2) 4)}, 森悦秀^{1),3)}

- 1) 一般社団法人 日本口腔ケア学会
- 2) 愛知学院大学歯学部附属病院 口腔ケア外来部門
- 3) 九州大学大学院歯学研究院 口腔顎顔面外科学分野
- 4) 愛知学院大学歯学部 口腔先天異常学研究室

私は大学 1 年生の時より、愛知学院大学歯学部公衆歯科衛生研究会に所属して、種々の公衆歯科衛生活動を行ってきました。

公衆歯科衛生研究会の OB を含めた愛知学院大学歯学部の卒業生が中心になり、1989 年に愛知県豊田市で「8020 運動」が提唱されました。平成元年当初、数%であった 80 歳で 20 本以上の歯がある高齢者は、現在 52%に達しています。

一方、「口腔ケア」も私を含めた愛知学院大学歯学部の卒業生が提唱して、日本口腔ケア研究会を設立し、その後学会に改組して、現在会員数は 7,531 名に達しており、歯科医学分野でも屈指の規模の学術団体に成長している。

これらの学会活動や臨床で得られた知見をもとに、がん支持療法としての口腔ケアや認知症の予防のための口腔ケア等は、これからの国際歯科保健医学分野にとって有望と考え、国際交流を行うため、日本口腔ケア学会では海外で活動をする場合を想定して、英文による認定証を作成するとともに、国際協力委員（委員長 森悦秀 九州大学教授）を設立して、ベトナム・モンゴル等で国際協力を行っている。

令和の時代に入り、さらに国際化を積極的に実施していくための日本口腔ケア学会の国際貢献の 5 か年計画を中心に報告する。

IV-10

International contribution through oral care

○Nagato NATSUME ^{1), 2), 4)}, Yoshihide MORI ^{1), 3)}

- 1) The Japanese Society of Oral Care
- 2) Outpatient Division for Oral Care, Aichi Gakuin University Dental Hospital
- 3) Division of Maxillofacial Diagnostic and Surgical Sciences, Department of Dental Science, Faculty of Dental Science, Kyushu University
- 4) Division of Research and Treatment for Oral and Maxillofacial Congenital Anomalies, School of Dentistry Aichi Gakuin University

I have done various activities for public dental health since when I was freshman of School of Dentistry, Aichi Gakuin University (AGU). In 1989, the 8020 Campaign was advocated in Toyota, Aichi, led by a group of alumni of AGU. At that time, there were only a few percent of elderly people who had 20 or more teeth at age 80. Now the percentage has been dramatically improved to 52.

The importance of oral care was vigorously advocated again by some alumni of AGU. They founded the Study Group for Oral Care in Japan and then reorganized it to the Japanese Society of Oral Care. The number of the Society member has reached 7,531, being one of the largest academic societies in dental and medical fields.

Oral care could be a promising measure for preventing dementia and as supportive care for cancer. We believe the oral care is getting more and more important domestically and internationally.

For the purpose of internationalization, we issue certificates in English. We also have established the International Cooperation Committee (Chairperson: Prof. Yoshihide MORI, Kyushu University) for the cooperative activities in Vietnam and Mongolia.

I will report 5-year activity plan for international cooperation of the Society

IV-11

最近のモンゴル歯科事情

○黒田耕平¹⁾

1) 日本モンゴル文化経済交流協会

民主化される以前のモンゴルでは、歯科大学は5年制で1979年国立医科大学1校で入学生も25人程度であったが、2014年からは6年制の学生が120人入学した。私立歯科大学は、先ず1998年に1校、2014年以降3校が開設されて、国立私立合わせて入学生は約736人となった。当然、大学の設備、教員数と質、実習内容等は評価も難しい。国民の歯科疾患はまだまだ悪化しており、歯科治療の需要はますます増えるばかりだが、今後卒業してくる歯科医師の質を考えると心配になる。歯科衛生士学校は、2014年に4年制で開設されたが2015年には募集を停止し、2016年からは3年制で再開されて入学生は5、6人である。歯科技工士学校は、1965年に3年制の専門学校が出来、20～30人の卒業生がいる。12歳以下の子どもの歯科治療費を1年に6万トグリク（約2610円）国が支払うという今年から始まった国の政策の問題点と、昨年取り組んだ公衆歯科衛生活動について述べたい。

IV-11

Recent Mongolian dental circumstances

○Kohei Kuroda¹⁾

1) Japan Mongolia Cultural and Economic Exchange Association

Before democratization in Mongolia, the dental university was a five-year system, and in 1979 one National Medical University had around 25 students, but since 2014, six-year system, 120 students have entered. First, one private university was opened in 1998, and three were opened after 2014, and there were about 736 students enrolled in the national private sector. Naturally, it is difficult to evaluate university equipment, the number and quality of teachers, and the contents of practical training. Although the dental diseases of the people are still getting worse and the demand for dental treatment is increasing, it becomes a concern when considering the quality of dentists who will graduate from now on. The dental hygienist school was established in 2014 with a four-year system, but the recruitment was suspended in 2015, and in 2016 the three-year system was resumed with five or six students. I would like to talk about the problems of the country's policy, which began in this year, in which the country pays dental treatment costs for children under 12 years of age only once, as well as public dental hygiene activities worked on last year.

V-12

新東京歯科衛生士学校での国際教育について

○川島貴重^{1),2)}, 久家理恵^{1),2)}, 谷野弦¹⁾, 持田寿光¹⁾, 渡辺一騎¹⁾, 佐藤緑¹⁾,
佐藤貴映¹⁾, 馬場安彦¹⁾, 高山史年¹⁾, 小峰一雄¹⁾, 宮田隆¹⁾

1) 歯科医学教育国際支援機構

2) 新東京歯科衛生士学校

【緒言】新東京歯科衛生士学校では「国際教育」として多角的プログラムを実施している。国際的な視野を養い、歯科業界を牽引できるグローバル人材育成に力を入れている。

【目的】国際的に通用する人材を育成し、グローバルな視野と高い志を持って学び、たくましい精神と行動を兼ね備えた人材育成を目的としている。

【活動内容】本校は国際ゼミ、国内国際性講座、国際ボランティア活動を教育プログラムに導入している。また、多国籍の留学生を積極的に受け入れ、国際交流を通して広い視野を兼ね備えた人材育成プログラムを実施している。

【考察】教員が歯科医学教育国際支援機構(OISDE)の派遣専門家としてラオスにて活動し、教育現場へ水平展開することによって、学生の意識変化がみられた。また、留学生在籍者数は5年前と比較し約7倍以上、増加している。国際化が進む中、「世界」という広い視点で考える事が出来る教育プログラム強化する必要があると考える。

International Education at Shin Tokyo Dental Hygienist School

○Takae Kawashima^{1),2)}, Rie Kuge^{1),2)}, Gen Yano¹⁾, Toshimitsu Mochida¹⁾,
Ikki Watanabe¹⁾, Midori Satoh¹⁾, Takao Satoh¹⁾, Yasuhiko Baba¹⁾,
Fumitoshi Takayama¹⁾, Kazuo Komine¹⁾, Takashi Miyata¹⁾

1) Organization of International Support for Dental Education: OISDE,

2) Shin Tokyo Dental Hygienist School

Introduction: The Shin Tokyo Dental Hygienist School implements a multi-disciplinary international education program. We are focused on developing global human resources who can adopt an international perspective and lead the dental industry into the future.

Objective: Our main purpose is to prepare our students to be able to work at a higher level almost anywhere in the world. Students and faculty are placed in an environment that fosters a global perspective and instills a positive attitude and work ethic.

Activities: Our school not only actively pursues exchange students, we have also hold international seminars and volunteer activities. We provide a high standard of education in the hopes that we can prepare others to both work and educate internationally at a high level.

Conclusion: International seminar activities and teachers at this school are sent to Laos as dispatch specialists for the International Organization for Dental Education (OISDE). They are able to clearly see positive changes in the students throughout their time there. In addition, the number of foreign students enrolled over seven times larger than it was 5 years ago. As internationalization progresses, it is necessary to strengthen educational programs that can be considered from the international view point.

歯科医療従事者にできる新たな国際保健活動への貢献のかたち（パート3）

○馬場安彦¹⁾，高山史年¹⁾，谷野弦¹⁾，宮田隆¹⁾

1) 歯科医学教育国際支援機構

【緒言】歯科系国際 NGO にとって公的資金調達は困難を極め、各々の団体は会員からの会費や寄付、会員自身の自己資金にて活動費を捻出している。特活) 歯科医学教育支援機構（以下 OISDE）では 2005 年より金属回収事業を展開し、国際保健活動に役立ており、前回試みた「かかりつけ歯科医機能強化診療所」等の届出の算定用件の研修会をさらに広く開催し歯科医療機関を支援し OISDE の活動広報と資金支援を得ることが出来た。

【目的】「かかりつけ歯科医機能強化診療所」等の保険医療機関で必要な研修会を開催し OISDE の広報活動を行うことと資金支援を得ることを目的とする。

【結果および考察】OISDE は保健医療機関の施設基準を満たす研修会を平成 30 年 1 月より平成 31 年 3 月までに東京 5 回、大阪 2 回の計 7 回開催した。研修内容は偶発症に対する緊急時の対応、医療事故および感染症対策等の医療安全対策に係る研修、高齢者の心身の特性、口腔機能の管理および緊急時対応等に係る研修であった。講師は OISDE から宮田、高山、馬場、谷野 4 名で OISDE の活動やボランティアの意義を含めた講演を行った。その結果、合計 720 名の歯科医師が受講し、OISDE の活動広報と資金支援を得る事が出来た。また、受講生の中には OISDE の活動に理解を示し、活動に参加するきっかけとなった。今後も継続的に研修会を開催予定である。

A new method of contributing to dentistry for international dental health care workers (Part 3)

○Yasuhiko Baba¹⁾, Fumitoshi Takayama¹⁾, Gen Yano¹⁾, Takashi Miyata¹⁾

1) Organization of International Support for Dental Education: OISDE

Introduction: OISDE has previously reported, obtaining public funds for dentistry international NGO is difficult in Japan. Activity funds are made up of donations and dues from members of each organization and organizations self-funds. The Organization of international support for dental education (OISDE) has started the precious metal recovery activities which has funded the improvement of international oral dental health care since 2005. This time, we held a workshop to further develop the metal recovery business, and we were able to get funds.

Purpose: OISDE held a workshop is an important workshop for dental clinics. As a result, OISDE was able to obtain activities and financial support. In this current report, we outline the workshop where we made notifications of the calculations for the "Kakarituke Sikaikinou kyouka Sinryoujyo".

Result and Conclusion: OISDE held seven workshops from January 2018 to March 2019, five in Tokyo and two in Osaka. The contents of this workshop were lectures on various subjects, including lectures on OISDE activities and the significance of volunteers, with lecturers by Prof. Miyata, Dr. Takayama, Dr. Baba, and Dr. Yano. 720 of dentists participated in this workshop and were able to obtain certificates of participation. OISDE was able to do public relations and got funds. Some of dentists understood OISDE's activities and became an opportunity to participate in our activities. We will continue to hold workshops in the future.

V-14

公衆衛生と1次予防と国際保健

○相田潤¹⁾，遠藤 眞美^{2),3)}，河村 康二^{3),4)}

- 1) 東北大学大学院歯学研究科 国際歯科保健学分野
- 2) 日本大学 松戸歯学部 障害者歯科学講座
- 3) 南太平洋医療隊
- 4) カワムラ歯科医院

一次予防は疾病が発生する前の予防であり、二次予防は出来てしまった疾患の早期発見・早期治療を行うことである。この二つの内一つしか選択できない時、あなたはどちらを行うだろうか？患者に治療・処置をするという選択肢はとても選びやすい。治療をしないと医療者は責められるかもしれない。一方で、まだ出来ていない病気の予防を行う選択肢は、やらなくてもそのデメリットは極めて目に見えにくいから選びにくい。病気になった人にも「あなたの生活習慣が悪いから病気になった」と言っておけばごまかせるかもしれない。これらのことから二次予防を選ぶことが自然に思えるが、学問的にはその反対の結論が導かれている。一次予防の方が効果が大きいため、結果として患者を減らすのである。実社会では国際保健も含めて、臨床から政策まで、二次予防が優先されてしまっていることが多いが、臨床および地域において一次予防を選択することが求められている。

Public health, primary prevention, and international health

○Jun Aida¹⁾, Mami Endo^{2),3)}, Kohji Kawamura^{3),4)}

- 1) Department of International and Community Oral Health, Tohoku University
Graduate School of Dentistry
- 2) Department of special needs dentistry, Nihon university dentistry at Matsudo
- 3) South Pacific Medical Team
- 4) Kawamura Dental Office

Primary prevention is preventions before onset of diseases. Secondary prevention is treatments in early stage of diseases. If you can choose one of these, which should you do? Secondary prevention is easy to select for the patients in front of you. Primary prevention is difficult to choose because its effect is difficult to see. Therefore, although primary prevention is more effective for reducing patients, secondary prevention is often dominant in both clinical and public health situations. Primary prevention is required in many situations including international health.

第30回JAICOH総会および学術集会 プログラム・抄録集 第30周年記念誌

発行日：2019年7月1日

発行：第30回JAICOH総会および学術集会 実行委員会

会長：宮田隆

大会長：眞木吉信

実行委員長：谷口健太郎

実行委員：河村康二 竹内麗理 遠藤眞美 谷野弦 斎藤孝平 浅野一磨

河村忠将

